

修士論文(要旨)  
2009年7月

中日英語教育における語彙の研究  
—高校検定済教科書の題材を中心に—

指導 森住 衛 教授

国際学研究科  
言語教育専攻  
207J4907  
楊静

## 目次

|                                      |            |
|--------------------------------------|------------|
| 序論                                   |            |
| 1. テーマ設定の理由 .....                    | 1          |
| 2. 研究の目的 .....                       | 3          |
| 3. 研究の方法 .....                       | 4          |
| <b>第Ⅰ章 語彙研究のための基本条件の中日比較 .....</b>   | <b>5</b>   |
| 第1節 教育課程 .....                       | 5          |
| 第2節 英語課程標準/学習指導要領（外国語） .....         | 8          |
| <b>第Ⅱ章 語彙の分量及び新出語彙の掲載方法の比較 .....</b> | <b>14</b>  |
| 第1節 語彙の分量の比較 .....                   | 14         |
| 第2節 新出語彙の掲載方法の比較 .....               | 16         |
| <b>第Ⅲ章 題材論の観点から語彙の質の比較 .....</b>     | <b>18</b>  |
| 第1節 題材 .....                         | 18         |
| 第2節 ことばの教育 .....                     | 21         |
| 第3節 異文化理解教育 .....                    | 23         |
| 第4節 人間教育 .....                       | 29         |
| <b>結論 .....</b>                      | <b>35</b>  |
| 1. 本研究のまとめ .....                     | 35         |
| 2. 本論文の応用性 .....                     | 38         |
| 3. 今後の課題 .....                       | 38         |
| <b>注 .....</b>                       | <b>39</b>  |
| <b>参考文献 .....</b>                    | <b>40</b>  |
| <b>謝辞 .....</b>                      | <b>42</b>  |
| <b>資料 .....</b>                      | <b>-1-</b> |

## 要旨

本研究は中国と日本の高校の公教育で行われている英語教育における語彙の比較・研究である。特に両国の高校で使われている検定教科書に現れる題材に絡めて研究するものである。公教育とは一般の公立、私立学校で行われている教育である。本論文で取り上げる英語教科書は、日本では文部科学省検定済教科書、中国では教育部検定済教科書とした。本稿で取り上げる題材とは教科書の本文で取り上げられている内容・話題である。その内容や話題は語彙が決める。また、題材は「教科書の内容に込められた思想、メッセージ」(森住 1992:39)である。その思想は語彙で現れる。したがって、本論文は、題材論の観点から語彙を分析・比較する。

本研究のテーマ設定の理由は以下の4点である。

### (1)なぜ語彙なのか

コミュニケーション能力の向上には、語彙力が非常に重要だからである(毛利 2003:89)。

### (2)なぜ高校なのか

高校では語彙の分量が急激に増え、指導が難しくなるからである(石黒 2002:26)。

### (3)なぜ題材なのか

語彙と題材は密接な関係にあるからである。

密接な関係とはあるテーマに関する語彙1つ1つには思想が込められ、この種の単語が集まると、それが題材になるということである。逆に、ある特定の題材を取り上げれば、その題材に関する語彙が集まってくるとも言える。

### (4)なぜ英語教科書なのか

教科書は英語の基礎学力を養う上で重要な役割を担うからである(河原 2002:269)。

本論文の目的は以下の3点である。

- (1) 語彙研究のための基本条件を比較する。
- (2) 語彙の分量及び新出語彙の掲載方法を比較する。
- (3) 題材論の観点から語彙の質を比較する。

研究の方法は次の通りである。まず、本論文の構成は序論、本論、結論の3部構成をとり、本論は3章立てである。第1章では語彙研究のための基本条件の比較を、第2章では語彙の分量及び新出語彙の掲載方法の比較を、そして第3章では題材論の観点から語彙の質の比較、分析を行う。次に、調査の対象は、2003年と2008年に出版された中国と日本の高校検定済教科書11冊を用いて分析及び考察を行う。

本研究をまとめると、第1章では、まず、両国の教育課程と学習指導要領について触れた。英語履修年限は日本より中国の方が長く、英語授業時間数は日本より中国の方が多く、学級規模は日本より中国の方が圧倒的に大きいことがわかった。中国の英語課程標準または日本の学習指導要領では、題材を強く意識して扱っていないことが明らかになった。第2章では、中日の高等学校の語彙数及び新出語彙の掲載方法について調べた。日本の高校より中国の高校の語

彙数が多いことが明らかになった。掲載方法については両国それぞれ長所と短所があることが判明した。第3章では、題材が重要であることを踏まえ、教科書の本文における題材内容の比較・分析を行った。両国の教科書では人間教育の扱いが一番多い。中国の高校の教科書は日常生活のやり取りが多い、日本の方は日常生活に関する題材も多少あるが、精神生活語彙、すなわち人間教育、科学、環境などの題材に関する語彙が割合的に多いことが明らかである。

両国の高校英語教育における学習指導要領は、題材に関する検討が必要である。中国の教科書における題材は、人間教育だけではなく、ことばの教育と異文化理解教育を多く扱うべきである。

今後の課題は、語彙の指導方法についてさらに研究することである。また、中国と日本の他の種類の英語教科書を比較・分析して、両国における教科書の改善に役立つ情報をもっと集める必要があると考えられる。

## 参考文献

- 石黒昭博・山内信幸・赤松信彦・北林利治 (2002) 『現代の英語科教育法』 英宝社
- 大下邦幸 (1996) 『コミュニケーション能力を高める英語授業』 東京書籍
- 大谷泰照 (2009) 「学習指導要領が映すこの国の姿」『英語教育』 5月号 Vol.58 pp.34-37 大修館書店
- 大谷泰照・林桂子・沖原勝昭他 (2004) 『世界の外国語教育政策—日本の外国語教育の再構築にむけて—』 東信堂
- 岡秀夫・赤秀代・酒井志延 (2004) 『「英語授業力」強化マニュアル』 大修館書店
- 尾関直子 (2006) 「中国の英語教育から見えてくるもの」『英語教育』 2月号 Vol.12 pp.23-25 大修館書店
- 河原俊昭 (2002) 「フィリピンと日本における入門期の英語教科書の比較」『中部地区英語教育学会紀要』 132, pp.269-276 中部地区英語教育学会
- 斉藤兆史 (2009) 「新高等学校学習指導要領の愚」『英語教育』 5月号 Vol.58 pp.41 大修館書店
- 柴田俊一 (2008) 「地域に根ざした異文化理解教育—ブラジル人生徒の多い中学で」『英語教育』 2月号 Vol.56 pp.18-19 大修館書店
- 柴田儀松 (1981) 『教科教育論』 第一法規出版
- 末延岑生 (1990) 「ニホン英語」『アジアの英語』 くろしお出版
- 鈴木貴之 (2009) 「新指導要領で入試はどう変わるか」『英語教育』 5月号 Vol.58 pp.32-33 大修館書店
- 高島英幸 (2000) 『英語のタスク活動と文法指導』 大修館書店
- 高橋貞雄 (1997) 「英語教科書の題材」『三省堂英語教育 中学編』 No.34 三省堂
- 高橋貞雄 (2001) 「題材の内容とその取り上げ方」『三省堂英語教育 中学編』 No.43 三省堂
- 竹岡広信 (2007) 「語源を利用して効果を挙げる」『英語教育』 2月号 Vol.55 pp.28-30 大修館書店
- 田中正道 (1991) 『英語教材開発マニュアル』 開隆堂
- 中村敬・峯村勝 (2004) 『幻の英語教材—英語教科書、その政治性と題意材論』 三元社
- 保坂芳男 (2008) 「新学習指導要領に何が期待できるか—高校「外国語」について—」『新英語教育』 三友社
- 本名信行 (2002) 『アジアの最新英語事情』 大修館書店
- 毛利公也 (2003) 『英語の語彙指導あの手この手』 溪水社
- 望月正道・相澤一美・投野由紀夫 (2003) 『英語語彙の指導マニュアル』 大修館書店
- 森住衛 (1980-1981) 「楽しい授業の工夫(1)~(12)」『英語教育』 大修館書店
- (1992) 「英語教育題材論(1)~(12)」『現代英語教育』 研究社出版
- (2003) 「英語教育の基礎を問い直す」 *Teaching English Now* Vol.2 三省堂
- (2004b) 「文部省〈戦略構想(行動計画)〉の意義と問題点」『桜美林シナジー』 第2号 桜美林大学大学院国際学研究所
- (2008a) 「中高英語教育の来し方行く末—戦後60年の教育課程と学習指導要領の総括の試み」『桜美林シナジー』 第6号 桜美林大学大学院国際学研究所
- Burnaby, B. and Y. Sun. (1989) Chinese teachers' views of Western language teaching: Context informs paradigms. *TESOL Q*, 23, 219-238
- Coady, J. & Huckin, T.(Eds.) (2000) *Second language vocabulary acquisition: A rationale for pedagogy*, Cambridge: Cambridge University Press
- Ellis, N.C & Beaton, A (1993) *Psycholinguistic determinants of foreign language vocabulary learning*, *Language Learning* 43-4,559-617
- JACET 外国語教材研究委員会 (1994) 「外国語教材論 1 外国語教育の教材」『英語教育』 4月号 Vol.43 No.1 pp.100 大修館書店
- (1994) 「外国語教材論 2 教材の種類」『英語教育』 5月号 Vol.43 No.2 pp.78 大修館書店